

令和4年度 第1回 和歌山市入札監視委員会 議事概要

開催日及び場所	令和4年7月25日（月） Web会議の方法により開催		
出席委員氏名	井伊 博行（委員長） 後 亮 奥 智香子 <div style="text-align: right;">五十音順</div>		
審議対象期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日		
抽出案件(総件数)	都市建設局 3件 企業局 2件	議 事 1 入札及び契約手続の状況について 2 抽出事案について 3 その他 ・総合評価落札方式による入札の試行について ・六十谷水管橋緊急復旧工事について	
一般競争入札 (事前審査型)	都市建設局 1件 企業局 1件		
一般競争入札 (事後審査型(郵送方式))	都市建設局 1件 企業局 1件		
一般競争入札 (事後審査型(持参方式))	都市建設局 1件 企業局 1件		
一般競争入札 (事後審査型(電子入札方式))	都市建設局 3件 企業局 2件		
公募型指名競争入札	都市建設局 1件 企業局 1件		
指名競争入札	都市建設局 1件 企業局 1件		
随意契約	都市建設局 1件 企業局 1件		
委員からの意見・質問、それに対する回答	意見・質問		回 答
	別紙のとおり		別紙のとおり
委員会による建議の内容	なし		

令和4年度 和歌山市入札監視委員会（第1回）

（委員からの意見・質問、それに対する回答等）

【入札及び契約手続の状況について】	
（事務局）	（令和3年度分の入札及び契約手続の状況について説明）
（委員）	令和元年度からの推移を見ると、契約件数、金額ともに減少傾向にある。特に、建設総務課では、令和元年度が216億円、令和3年度が59億円と、契約金額が大きく減っている。この理由は。
（事務局）	令和元年度、2年度は、和歌山城ホールや中央卸売市場の水産棟建設など契約金額の大きい案件があったため。
（委員）	今後の見通しは。
（事務局）	令和4年度は昨年度と同じく50～60億円ぐらいになる見込みで、来年度以降も発注案件によって多少の増減はあっても同程度で推移していくのではないかと考えている。
（委員）	大型工事の発注が一通り終わって、小規模なものや、維持管理的なものが多くなっていくのであろう。難しいのだけれど、地元企業も公共工事が減っていく中で、日本のメンテナンス分野の強みを活かして、海外でも活躍できる場所が出てきてくれたらいいが。
【抽出事案について】	
① 四箇郷小学校トイレ改修工事	
（事務局）	（抽出事案の概要について説明） 本件が、同時期に発注した同種工事と比較して落札率が高い理由は、本工事だけの特殊な事情があったわけではなく、落札予定者が同日開札の別の案件でも落札予定者となったことで辞退が発生し、高い金額で入札していた者が次順位者として落札したためだと考えられる。 電子入札では同日開札の複数の案件で落札予定者となってしまった場合の辞退を認めており、できるだけ同じ日に類似工事の案件が重ならないようにしているが、本件は学校内の工事であり夏休み中にできるだけ工事を進める必要があるということで担当課からの依頼により発注時期が重なったものである。
（委員）	本件のように、ランダム係数の変動範囲内に複数の応札があっても、係数によって1者以外が失格となり、その残された1者が辞退してしまうと、高い金額で入札した者が落札者となる。これはランダム係数を用いた入札の弊害といえる。辞退したときは、ランダム係数の変動範囲内で応札のあった業者と契約するようにはできないのか。
（事務局）	開札終了後の辞退であり、高額でも次順位者がいる以上、現在の制度ではそのような対応は困難なため、制度のあり方も含めて検討を行う。

② 地籍調査E業務委託（2102）	
（事務局）	<p>（抽出事案の概要について説明）</p> <p>本件は先ほどの案件と同様に、落札予定者の辞退により、次順位者が繰り上がり、結果として高い落札率となったものである。</p> <p>また、業務の内容が地籍調査に際して土地所有者等が立ち会い土地の境界を確認する作業となっており、日程調整や、関係者の協力・合意が得られないなど、多くの時間と手間がかかるおそれがあることも、入札参加者が少なく、落札率が高くなった要因の一つだと考えている。</p>
（委員）	開札調書に記載している無効とは何か？
（事務局）	<p>入札に当たっては入札金額の内訳書の提出を必須としており、その内訳書が未提出又は不備がある場合は無効の入札として取り扱っている。具体的には、内訳書には案件名、会社名、代表者名等を記載するようになっているが、この件については業務名に誤りがあったため無効としている。</p>
（委員）	不備の程度にもよるが、仮に安い金額で入札していた場合、それを無効とするのはもったいない気がする。
（事務局）	<p>入札に際して提出してもらった書類は、入札参加の意思を表すものとして重要だと考えており、その意思表示が不明瞭であるものは入札を無効として取り扱っている。こんな場合は無効になるという具体的な例示をホームページでも公表しており、入札の公平性、透明性を確保するためには必要だと考えている。</p>
③ 有功第1雨水幹線工事その10	
（事務局）	<p>（抽出事案の概要について説明）</p> <p>本件は、既設水路の改修工事であり、水路の水をせき止めることなく工事を行う必要があることから、オープンシールド工法という特殊な機械を用いて布設する工事である。</p> <p>オープンシールド工法は特許工法であり、工事の施工にあたっては、特許実施料の支払いに加え、他県にあるオープンシールド機器を運搬設置したうえで着工し、工事完了後に機器を返却する必要があることから、他の下水道工事に比べて予定価格が高くなっており、企業努力で経費を削減することが困難なことなどから、落札率が高くなっていると考えられる。</p>
（委員）	1者無効となっているが理由は何か。
（事務局）	内訳書の日付に誤りがあったため無効としている。

④ 衛生研究所高度安全実験室整備工事	
(事務局)	(抽出事案の概要について説明) 本件は、衛生研究所内にバイオハザードユニットという病原体が外に出ないよう封じ込める実験室を設置する工事である。 このバイオハザードユニットを取り扱う業者が全国でも限られており、経費の圧縮が難しかったこと、また、高度安全実験室という特殊な整備工事ということで施工できる業者も少なかったことが、入札参加者が少なく、落札率が高かった理由だと考えられる。
(委員)	わかりました。
⑤ 北部処理区支線工事その2	
(事務局)	(抽出事案の概要について説明) 本件の予定価格が高く、入札参加者数が多い理由は、本工事は、公共下水道の汚水管を布設する工事であり、既設管から立坑までの開削部分が22m、堤川の河川下を通す推進部分が14.1mと短いため、想定外の変更等は起こりにくく、工事日数も短いと想定できたことや、公告が2月22日、開札が3月17日で契約時期が年度末となったため、業者の技術者にも余裕がでてくることから、応札意欲が増し、入札参加者数が多くなったと考えられる。
(委員)	わかりました。
【その他】 総合評価落札方式による入札の試行について	
(事務局)	(総合評価落札方式による入札の試行について説明)
(委員)	総合評価は、事務量の増大や入札期間の長期化、評価の恣意性など問題があり、海外でもあまり実施されていない制度である。市の職員数も減る中で、求められているのはシンプルで低コストな入札制度ではないか。
(事務局)	本市では、業務量が余り増えず、定量的な評価を行う特別簡易型を採用しており、1件だけではあるが入札を試行した。今回の試行結果等を踏まえ、透明性、公平性、競争性のあるより良い入札制度を検討してまいります。
【その他】 六十谷水管橋緊急復旧工事について	
(事務局)	(六十谷水管橋緊急復旧工事について説明)
(委員)	わかりました。